

学校法人 佐賀ルーテル園
唐津ルーテルこども園

1. 本園の教育目標

(1) 教育方針

キリスト教精神を土台にした人間教育を目的としており、乳幼児期における健全な心身、宗教的情操、隣人愛等の育成に重点をおいている。

- ① 生涯の土台となる心を育てる。
- ② 一人ひとりの人格を大切にし、心の行き届いた保育を目指す
- ③ 豊かな心、信頼の心、感謝の心、意欲的な心の土台を育てる。
- ④ 友だちとともに生活することに喜びを持つ心を育てる。
- ⑤ いろいろな実際体験を多く保育に取り入れ、体験や遊びを通して心身が健全に育つよう
- ⑥ 健康なからだ作りを目指す。(薄着奨励)
- ⑦ 家庭と園の連携を大切にし、保護者と教諭等が協力し、子どもの成長に手を添えていく。

2. 本年度重点的に取り組む目標・計画

<p>【健康】様々な活動の中で、体を思いきり動かす楽しさを知り、進んで体を動かそうとする意欲を育てる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ◎サーキット活動を継続して行い発達段階に応じた多様な動きを経験できる活動を取り入れる。 ◎様々な活動を通して体幹を育てる。姿勢を保つことができる体づくりを目指す。 ◎感染症等から身を守るための方法を身につける。 <p>【言葉】コロナ禍においてマスク着用等による環境の変化に対応しながら子どもたちに丁寧な言葉かけや歌、お話など豊かな表現につながる工夫をする。</p> <p>【環境】身の自立の基礎が培われていくために必要な生活の中での習慣やリズムを見直し、環境を整えていく。</p>

重点	取り組み状況
健康	<p>*サーキットに関しては年間を通した研究保育を行ない、各クラス学年で取り組むことができたと思う。運動会でも展開し、保護者に伝えることができた。</p> <p>*サーキット活動や日頃の食事中、着席時の正しい姿勢の積み重ねが大切だと感じた</p> <p>*子供たちの体・動きにも変化が出てきているように思う、引き続き研究して行きたい</p> <p>*体の動きだけでなく個々の姿、クラス集団としての姿また保育者の姿も見る良い機会となった</p> <p>*発達段階によってサーキット活動の動きが違うことや、さまざまな活動を通して体幹を育てることが年長の組体操を通して目に見えて実感することができた</p> <p>*状況に応じた感染症対策を行ってきた。手洗いや消毒、換気など意識して行っている。</p>
言葉	<p>*マスクでの対応は大変だった。子供達は基本はノーマスクではあるが保育者がマスクをして保育をすることで子供達の言葉や心への影響も感じている</p> <p>*子供たちそれぞれの成長と興味があることなどを感じながらの言葉かけや対応を意識した</p> <p>*1歳児クラスはことばの発達(習得)段階で基礎になる月齢なのでゆっくりはつきり話すよう(マスクも口の動きが分かるものをつけ)に勤めた。</p> <p>*マスク着用しても子どもたちや保護者の方にわかりやすく丁寧な言葉を心がけた</p> <p>*マスク着用の一年間で、関わっている0.1歳児の反応が心配でしたが、目の表情や言葉かけ声で理解でき接する子供達に安心できた</p>
環境	<p>*常に丁寧な言葉かけを意識して保育をした。今までに習得してほしい身の自立に重点を置いた。</p> <p>*コロナ禍でも工夫して子供たちがのびのびと過ごせるよう配慮した保育ができていた</p> <p>*自然の多い園庭で一年を通して体を動かし、室内でも鉄棒などいつでも遊べる環境の中で体をたくさん動かす子供たちの姿が見られた</p>

全体	<p>*コロナになっても安心して過ごせるよう職員もしっかり学ぶ機会があり、そのことを子供達に伝えることができ、子ども、保育者の心の安定に繋がったことが大きかった。</p> <p>*現在もコロナ禍が続いている中、室内の環境を整え感染を抑えることのできるよう消毒、乾燥を防ぎ、換気行っていくようにする。マスクを着用しているので言葉かけなど意識して丁寧にするよう心がけた。</p> <p>*個別に対応が必要な子どもについて、成長の過程で、今何が必要なのかを見逃さないよう気をつけ、担任との細かい打ち合わせ（指導計画）をするようにした。ほかの子どもたちに関しても同様に担任と子供たちの姿や様子を伝えるように心がけた</p> <p>*感染症の対策、対応を実際に行うことになり、行政とのやり取り、そのために必要な職員保護者への周知そして子どもたちの保育のこと…考えることすることに追われるような時もあったが連携し対応することができてよかった</p> <p>*日常業務はもちろんのこと、コロナ禍で送迎が玄関先になったことで、やり取りがスムーズに行くよう心を配りいろいろなことに臨機応変に対応するよう心がけた</p> <p>*保育部門では行事ごとに推進員を立ち上げ長を中心に進めてきた。専門的に方向づけていくことでより理解を深め、取り組み意欲が増したように思う</p> <p>*ひとりひとりの成長に合わせて、やろうとしていることに対し意識を持ち保育に臨んだ。コロナ禍でも子どもたちが変わらず生活できたことに感謝の気持ちである。常に健康管理を意識し健やかに伸びやかな保育も今後心掛けていきたい</p> <p>*チームワーク、不得意のおやつ作りを頑張った。一週間栄養士の代わりにガスを担当そして改めてガスの大変さがわかった今後も誰が抜けてもいいようにガスを練習しようと思った</p>
----	---

3. 評価項目の達成及び取り組み状況

評価項目 取り組み状況

	評価項目	評価と取り組み状況
1	子供理解・指導の計画等	<p>○園内研修を通して、全体での取り組みが行われたことで学年ごとの発達過程や活動の見直し、工夫などがスムーズに行われるようになってきた。職員も意識し、継続して日々の保育にサーキット活動を取り入れることができたと感じていた。記録や振り返り等の時間の確保が未だ課題となっている。</p> <p>○個別の指導計画や日々の計画、個人記録、職員間の情報共有など心掛けているが、事務的負担も大きく、対応したいが十分に出来ていないと感じる職員もいた。今後も配置や環境、時間配分などの工夫を行っていききたい。</p>
2	衛生管理	<p>○看護師、職員による園内の消毒や手洗い場等の飛び散りのふき取り、おもちゃの消毒、手洗いなど職員も子どもたちも意識するようになってきた。子どもたちの日常を守りながら、今後も意識して衛生管理に努める。アレルギー児の対応については、年度途中での解除等間違いが起りやすくなるので、情報の周知と声の掛け合い（確認）をこまめに行っていく。</p>
3	家庭及び地域連携・子育て支援	<p>○昨年度の保護者アンケートから、園の様子を知りたいとの意見が多く、コロナ禍で保護者との接点の減少を感じた。園の様子を保護者に伝えるツールとして、玄関へのクラス、学年、給食などの様子を写真で貼り出したり、SNSで発信をしたり、オリブノートや個別の面談等を意識して行っている。</p> <p>子育て支援については、コロナ対応で閉鎖の時もあったが、その中で何ができるかを考え、対応した。sukusuku は内容が充実し、多くの方の参加があった。小学校との連携については今後も近隣の小学校と連携を取りながら保育に活かしていく。</p>
4	子どもの人権、安全と健康	<p>○あなたは大切な人、神様の宝です。その思いで子どもたち一人ひとりにかかわっている。子ども同士でも互いに声を掛け合う姿が見られ、感謝の気持ちが育ってきていると感じる。</p> <p>職員が祈り、支え、大切にされていくことで子どもたち一人ひとりも安全に安心して活動できる環境をさらに整えていきたい。</p>
5	教職員の資質向上・研修	<p>○コロナ禍でオンライン研修が多く、できるだけ参加できるように配慮した。本務だけでなくパートの職員も熱心に内容理解をしようとする姿があった。チームでの共有から全体での共有にするために運営会議、月案、週案等で分かち合うことができるようにしていきたい。</p>
6	運営体制	<p>○今後もスタッフ間の交流、コミュニケーションの取り方、時間配分、タスク管理、新しいスタッフへの配慮（仕事の伝え方大事にしていることなど）等、それぞれが自立し自分の役割を認識し仲間と一緒に子どもたちの心と体の成長に手を添えていき共に育つ園になるよう目標を持って行きたい。園児募集について今までの方法だけでなく新しい方法や保護者に伝え方を考えて行きたい</p>

4. 総合的な評価結果と今後の課題

○今年度も引き続きコロナ感染予防対策を行いながらの1年になった。特に年度末は学級閉鎖等の対応もあったが、保護者の協力を得ながら、保育、行事など園児の日常を確保し、安心、安全に過ごす環境を整えることに配慮してきた。

○今年度は、サーキット活動を研究保育として継続して行った。継続して子どもの成長を見ることができた。年間を通して継続して体を動かす経験が、子どもたちの意欲や体幹の育ち、個々の自立や集団でのかかわり方など多岐にわたり影響していることを感じた。また、保育者自身も、自ら学びを深める努力をする姿勢がみられ、互いに保育を見て情報共有することで保育に広がりが見られた。

○ゾーニングにおいて保護者の園内への立ち入りが制限されていることや、行事の在り方などを通して、いかに保護者に保育の様子を発信できるかを考えてきた。保育の様子や給食の写真の玄関への貼りだしや、インスタグラムなどで伝えることなどを取り入れた。今後も継続し、スムーズな発信ができるように環境を整えていきたい。

5. 学校関係者評価

コロナ禍においても、「教育方針」に即した年間カリキュラム、月案が立てられ、日々の保育が丁寧に行われています。特に日誌の特記事項を見ると、保育者が一人ひとりに寄り添っていることが伺えます。教育方針にある「一人ひとりの人格を大切にし、心の行き届いた保育を目指す」が実践されていることがよくわかります。感染予防に努めながらも、保護者の方と連携しつつ、できる限りの園児の生活(活動)を確保し、且つそれらを安全に行えるように努めておられます。加えて、コロナ以前のように園(子どもたち)の様子を直接見る機会の減った保護者の方々へ、オリーブノートや玄関の掲示などを通して園の様子を伝えられていることも素晴らしいです。

監事 岩切雄太

書類及び園長より直接の回答を受けましたところ、何ら問題はありませんでした。自己評価については、総合的な評価結果と今後の課題については記述されていますので、引き続きの対応をお願いします。

監事 波田公男

6. 財務状況

学校法人佐賀ルーテル学園の令和4年3月31日をもって終了する会計年度の経営の状況及び、同日現在の財政状態をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

公認会計士 藤崎 武

公認会計士 坂田 達哉

公認会計士監査により、園の運営、財務管理は、適正に行われていると認められています。

監事 岩切 雄太

監事 波田 公男